

三技研報第一三六号

昭和十九年三月十三日
第三陸軍技術研究所

迷彩（船舶）研究報告

一 研究ノ起因

昭和十八年七月一日兵政技報密第三〇六号本部命令

二 研究成果ニ對スル判決及將來ノ處置

1 輸送船ノ迷彩法ハ昭和十八年八月一日發行、海軍航海學校船舶

迷彩研究報告ニ準據スルヲ適當ト認ム

尙之ガ塗裝要領ハ附圖第一ニ示ス

2 小型舟艇類ノ迷彩法ハ第二圖ノ如ク水平面並ニ垂直面ノ複合塗

裝ヲ適當ト認ム

3 研究セシ迷彩塗裝法ハ直チニ輸送船並ニ小型舟艇類ニ實施シ具

体化スルヲ要ス

三 研究經過ノ概要

1 昭和十八年八月研究命令ニ基キ研究ヲ開始ス、直チニ海軍艦政本部ト連絡シ海軍ノ研究結果ヲ調査スル一方囑託關秀光ニ本研究ヲ委託ス

2 海軍ノ研究調査ノ結果輪送船ニ關スル迷彩法ハ研究終了シ居ル爲之ヲ利用スル事トシ研究要項ヲ「主トシテ海上及海岸ニ於ケル小型舟艇類ノ偽裝、迷彩法ニ就キ研究ス」ト改ム

3 昭和十八年十二月靜岡縣田方郡三津濱海岸ニ於テ第一回試験ヲ實施シ小型舟艇類迷彩ノ基礎資料ヲ得タリ
尙此ノ際海軍迷彩色モ比較ノ爲試験ヲ實施ス

4 昭和十九年二月靜岡縣田方郡靜浦海岸ニ於テ第二回試験ヲ實施シ小型舟艇迷彩法ニ關スル判決ヲ得タリ
本試験ノ結果概ネ實用ニ適スル程度ニ到達セルヲ以テ茲ニ研究ヲ終了ス

四 迷彩法概説

1 用途

輸送船又ハ小型舟艇類ノ形狀、大サ、航進方向、速力等ヲ眩惑セシムルニ用フ

2 構造及機能ノ大要

イ、輸送船ノ迷彩

輸送船ノ迷彩要領ハ海軍航海學校研究報告ニ準據シ附圖第一ノ如ク水際、舷側、上部構造物及船首尾ト複合塗装ヲ行フ、即チ上部構造物及船首尾ハ陰影ヲ消去スルタメ淡色トスルヲ要シ、橋上部ハ更ニ淡色トナスモノトス

尙本様式ニ依リ塗装ヲ行フニ當リ極力附圖ノ見本色ニ合致セシムル如ク色彩ヲ合ハスコト肝要ナリ

本迷彩ニ使用スル塗料ノ明度並ニ割合割合次ノ如シ

塗料箇所	明度		堅練への割合		
	測定値	規格	紺	青	黒
水際	27.7	28±1.5	1.7	0.9	23.0
舷側	29.7	30±1.5	1.7	0.9	23.0
船首尾上部構造物	44.8	45±2	(舷側塗料) 1 : (調合白ベイント) 1		
橋上部	64.6	65±2	(舷側塗料) 1 : (調合白ベイント) 5		

ロ、小型舟艇類ノ迷彩

小型舟艇類ノ迷彩要領ハ第二圖ノ如ク水平、垂直兩面ノ複合塗装ヲ行フ、但シ特ニ舟艇ガ小型ノ場合ハ垂直面ト同一ノ塗装ヲ全般ニ行フモノトス

0500

尚^本式ニ依リ塗裝ヲ行フニ當リ極力附圖ノ見本^本色ニ合致セシム
 ル如ク色彩ヲ合ハスコト肝要ナリ
 本迷彩ニ使用スル塗料ノ性質左ノ如シ

塗料名	用	色	用	量
睡面	8.51%	8		1
木平	3.79%	8		1

本表ハ偽裝標準色表ニ依ルモノトス

五 研究担任者

科 長

陸軍大佐

福

田

外

次

郎

陸軍兵技大尉

猪

股

登

陸軍兵技中尉

村

山

友

弘

囃

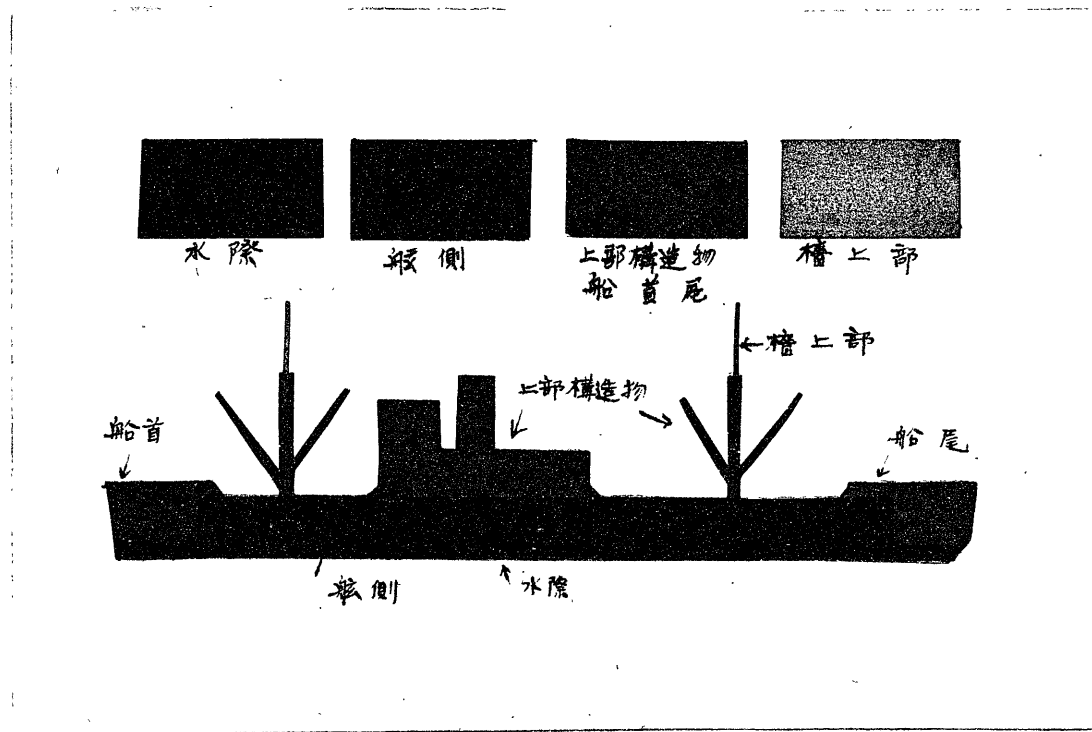
關

秀

光

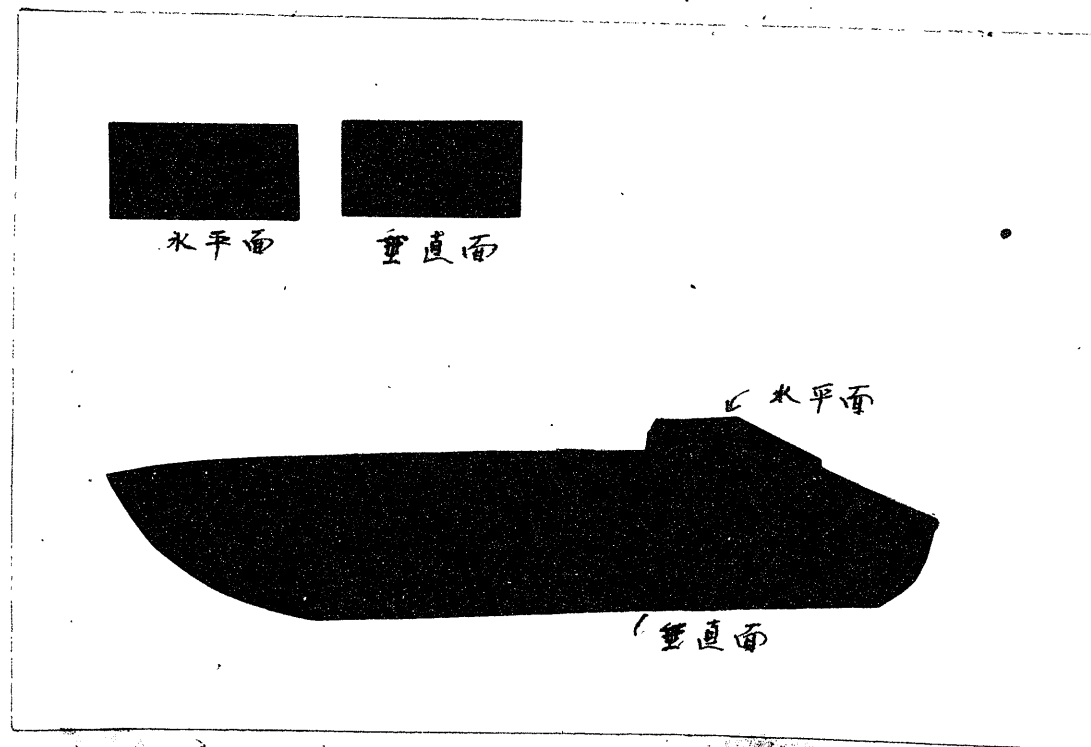
第一圖

輪船迷彩罩飾（海軍航海學校研究報告ニ依ル）



0502

第二圖
小型舟艇類 迷彩要領



終

0503